こども家庭庁創設に関する野田聖子少子化担当大臣要望事項

「三つ子の魂百まで」プロジェクト

「0歳からの立腰（りつよう）・体幹（たいかん）遊び®」で身体（からだ）も心も健やかに育つ！

いじめ、不登校、暴力行為、骨折、発達障害、アレルギー等日本の子供の憂慮すべき現代的（社会的）課題の克服

→ 教育、子育てに関する縦割り、前例踏襲主義を排し、こども家庭庁施策の一つの柱に！

令和3年12月23日

公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト

1 提案の具体的内容

（1）「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会兼「0歳からの立腰・体幹遊び」講座の開催（別紙参照）

立腰（りつよう、腰骨を立てる）、体幹遊び、姿勢・挨拶、「マナーキッズ」調べ、食と健康（健康の鍵は5歳位までに決まる腸内細菌）、日本の伝統的な子育ての再評価（離乳の時期など）という内容の「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会（保育士他対象）兼「0歳からの立腰・体幹遊び」講座（保護者対象）を開催する。

マレーシア方式の採用・・・平成28年5月にマハティール首相が92歳で首相に返りさき、「日本をお手本・模範にしよう」と、マナーキッズプロジェクトが35人の中核になる政府関係者を対象に「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会を開催し、中核者35名がマレーシア国内幼稚園・保育園教諭、保育士を指導する計画であったが、令和2年2月にマハティール首相の退陣により中断中。

（2）「三つ子の魂百まで」プロジェクト今後の展開策案

①東大阪市（野田義和市長：教育再生首長会議会長）及び埼玉県本庄市（吉田信解市長：全国市長会社会文教委員会委員長）において、「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会兼講座を両市、両市教育委員会の後援を得て、6人の講師陣により開催。同様の方式で、全国各市町村に開催を働きかける。

②「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会兼講座開催後の展開策として、保育士他を対象にした「0歳からの立腰・体幹遊び」講師養成講習会を開催する。講師は、新たに養成中の「三つ子の魂百まで」上級専任講師25名（立腰、体幹遊び、姿勢・挨拶、「マナーキッズ」 調べ、食と健康全部を一人で担当）或いは、専任講師25名（二人で分担）が担当する。youtubeを活用する。

③「0歳からの立腰・体幹遊び」開催保育園を募集する。

④保護者対象の「0歳からの立腰・体幹遊び」講座を開催する。講師は上級専任講師1名或いは専任講師2名が担当する。

⑤各市町村毎にいじめ、不登校、暴力行為、骨折、発達障害、アレルギー、体力の向上、学力の向上、医療費の削減について、3年後、5年後、10年後の目標値を設定する。（7ページ参照）

⑥各保育園他において、「0歳からの立腰・体幹遊び」を実践し、「立腰・体幹遊び」実績表（8ページ参照）に記入する。

⑦「立腰・体幹遊び」実績表において、「概ねできた」 「できた」の保育士等に対し、インセンティブの観点から「三つ子の魂奨励金」（年10万円程度）を支給する。保育士等の待遇改善の一助にもなる。

2　3年・5年・10年後の数値目標の設定

- いじめ件数、暴力行為件数、不登校数、骨折件数、発達障害、アレルギー人数、医療費の削減等で例えば3～5割減の3年・5年・10年後の数値目標を定める。
- 小・中・高等学校いじめ件数　文部科学省調査令和2年度517,163件、児童生徒1,000人当たりの認知件数39.7件→5年後30%～50%減→10年後ゼロ
- 小・中・高等学校暴力行為件数　文部科学省調査令和2年度66,201件、児童生徒1,000人当たりの発生件数5.1件→5年後30%～50%減→ 10年後ゼロ
- 小・中学校不登校数　文部科学省調査令和2年度196,127人　児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は20.5人→5年後30%～50%減→10年後ゼロ
- 小・中学校骨折件数　独立行政法人日本スポーツ振興センター調査令和元年度
  小学校83,642件、中学校91,805件→5年後30%～50%減→10年後ゼロ
- 発達障害　平成28年厚生労働省調査481,000人→5年後30%～50%減→10年後ゼロ
- アレルギー自治医科大調査医師診断乳幼児30万人～50万人、学齢期35万人→30～50%減→10年後ゼロ
- 医療費　令和元年度　43.6兆円→5年後10%～30%減→ 10年後50%減

3 日本の子供・若者の憂慮すべき現代的（社会的）課題をこのまま放置していていいでしょうか？（1992年学研『今「子供」が危ない』約30年経過）

- 子供の運動不足が深刻・・・「体幹」が鍛えられておらずケガする子供が増えている。
- 子供の姿勢が悪い・・・姿勢の悪さは、健康、脳に影響する。
- 今のままの食生活では、子供のアレルギー、不妊症、奇形児等悪化の一途。
- 発達障害は増加の一途、いじめによる自殺、学級崩壊、小1プロブレム等。

4 マナーキッズプロジェクト

- 立腰（りつよう　腰骨を立てる）・体幹遊びで運動能力を高め、学力も向上。
- 平成18年12月開始の早稲田大学庭球部小学生テニス教室が原点。平成17年4月公益財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクトを経て、平成26年10月公益社団法人マナーキッズプロジェクト。スポーツ庁後援
- 国内47都道府県と台湾・マレーシアで延100万人を越える園児・児童が参加。
- 第一次安倍内閣、平成19年3月22日教育再生会議合同分科会において、小谷実可子委員がマナーキッズについて触れ、教育再生会議版スポーツプロジェクト創設を提言。平成30年4月、川淵三郎最高顧問と菅官房長官面談。令和2年1月、川淵三郎最高顧問と萩生田文部科学大臣面談。令和3年6月、和田義明内閣府大臣政務官と下村博文自民党政調会長と面談。

5　立ちはだかる壁

（1）　我が国の道徳教育の実情

「我が国の道徳教育は、「命を大切に」「思いやりを大事に」等、観念的・抽象論的で心構え論になりがち。体験を通じた美しい姿勢、挨拶の仕方を指導していない。（品川区元教育長）

（2）　横浜市教育委員会での実例

横浜市西部教育学校事務所管内20小学校において、マナーキッズ体幹遊び教室を実施したが、小学校道徳教科に関連し、日本の伝統的な姿勢、挨拶の学校外部による指導に対して「自由」・「個性」の侵害という反対もある。横浜市では教育委員会が抗議に折れて平成30年度は不継続と判断。政治の支援が不可欠。

（3）　日本の伝統的な子育てについて

発達障害等は昭和55年以降に激増しているとのこと。昭和55年（1980年）「離乳の基本」に関するガイドラインが作られたのを基準に、離乳食の開始は「生後5、6か月頃、離乳の終了は「生後1年頃（現在は12～18か月）」とされている。日本の伝統的な子育ては、2歳半までは母乳かそれに準ずる乳幼児ミルク（ヤギの乳）、WTOも2歳過ぎまで母乳中心としている。母子健康手帳離乳の基本改訂の検討。

参考　〇〇市目標値の設定

項　　目	現在数値	3年後目標値	5年後目標値	10年後目標値
いじめ				
不登校				
暴力行為				
骨折				
発達障害				
アレルギー				
体力の向上				
学力の向上				
医療費の削減				

立腰・体幹遊び採用園、小学校・・・毎年の目標値の設定

参考　立腰・体幹遊び　実績表

○○保育園　○○組

項目			実績	
立腰	毎日の立腰タイム	できた	概ねできた	できなかった
	授業の際、食事の際に立腰			
	挨拶は自分からする			
	返事は「ハイッ」とはっきりする			
	履物は揃える、椅子は入れる			
体幹遊び	授業の始めと終わりの挨拶を通して体幹を鍛える			
	体育の時間等において身体活動量を増やして体幹を鍛える			
	朝の会等での運動を通して体幹を鍛える			
「マナーキッズ」調べ	「言葉」「お辞儀・挨拶」「歩き方・姿勢」「生活」「社会規範」を親子でチェック			
食と健康（任意）	健康の鍵は、5歳位までに決まる腸内細菌。母乳が大切。日本の食文化の原点に立ち戻ろう			